

Shin Club 46

(株)辰 通信 Vol. 46

2004年1月

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-24-4-7F

Phone: 03-3486-1570 Fax: 03-3486-1450

編集発行人: 松村典子

今月のトーク 「離れ」

昨年10月にお引渡しした、川崎市のY邸は、東側に公園のある緑豊かな環境の住宅です。母屋の地下室はRC造、離れは木造、1、2階は鉄骨造という混構造。オーナーY様の弟である、八木幸二氏(東京工業大学八木幸二研究室)の設計のため、オーナーも行き届いた配慮にすっかり満足されていました。お二人にお話をうかがいました。

Y様「実家の家財を引き取ることになり、大きな収納室が必要になりました。また高齢の母との同居を視野に、以前からの住宅を建て替えることにしました。この敷地以外にも広めの土地を探しましたが、高台の南端という日当たりの良さや公園の隣という緑豊かな環境は、ほかにはなかなか見つからなかったため、この場所で建て替えることにしたのです。」
八木「容積率、建蔽率を最大限に利用し、地下室を設けて収納スペースをいっぱいにとりました。」

Y様「実家は、祖父までは15代続いた医者の家。父は日展の画家で、蔵にはかなりの家財がありました。長持ちなんか10個以上あった。それでも美術館に寄付したりしてだいぶ処分はしましたが-。」

祖先から引き継いでいる貴重な品々を廃棄することはやはりためらわれたようで、地下室はほぼ埋め尽くされました。八木氏は地上への排水を独自に考えた除湿システムを実験中です。

母屋の1階はワンルームのリビング・ダイニング。オープンに見える階段室とはガラス引き戸で仕切っています。八木「玄関口にカーテンを設け、熱が上階に逃げるのを防いでいます。ガラス引き戸には小さなフックも表面に張ってあるので、壁面としても利用できます。」

1階離れは、6畳の和室で施主の母君の部屋として設けられました。残念ながら入居直前に他界されてしまいましたが、お子

様たちの家族が泊まっていくのに便利だそうです。母屋との間の廊下に洗面所・トイレ・バススペースを設け、気兼ねなく出入りできるよう、外への出入り口もつけました。部屋に入ると、窓越しに母屋のダイニングを見ることができ、和室にいるときも家族の様子が窺えて安心です。

離れの屋上部分はファイバーグレーチングのブリッジで母屋2階とつながっています。約1mの高さの壁で囲まれたデッキスペースで各面にあいている窓のため通風がよく、物干場となっています。緑化パネル(セダム)が置かれていて、中庭の植栽とともにこちらの成長も楽しみです。

母屋の2階は、寝室としての2つの和室と書斎コーナー、バスルームを含むユーティリティコーナーがあります。片流れの屋根と壁の間にスリットが入っているため、屋根が浮いたように見え、空が建物全体を回りこんでいるイメージです。内部も天井が仕切られていないので(上部にガラスが入っていますが)フロア全体が開放感のあるスペースになっています。

八木「『離れ』について、思い出すのは、鎌倉で15,6年前に作った住宅のことです。打合せをするうちに、お姑さんをあまりわずらわせないで友人との団欒を持ちたいというお嫁さんの気持ちが見えてきました。そこで居間・食堂などを母屋の1階にして、子供5人を含む若い世帯は上階へ個室を作り、お姑さんには離れを用意して別の入口も設けました。もちろん母屋の1階で食事や風呂、トイレなどを一緒に利用できるようにしました。つまり上の世代と下の世代では、生活動線が異なる方向に向くようにしたのですね。今回も兄弟夫婦のどちらかが次の世代と暮らす時に、ある程度の距離感を維持できるように『離れ』がいいと考えました。庭も公園の借景も、南側の景色も開放感があり、別荘のような感があるこの土地をうまく利用できたと思います。」

世代を超えて使いこなしていく家を考え、広さだけでは決められない現在の敷地の恵まれた点を生かした、2世代、3世代住宅となりました。



外観。門扉はファイバーグレーチング、外壁はグレーのガルスパンですっきりとした印象。離れ和室全景。母屋の底はグレーチング。離れ和室から母屋との通路にあるバスルームを臨む。離れ和室から見える母屋の食堂。東隣の公園も庭の一部のようである。玄関を入ると、左手は2階への階段。奥にキッチンが見える。右手がリビングとなる。2階バスルーム。片流れの屋根と壁の間のスリットから入る空が美しい。手前は洗面所。2階ユーティリティスペース。トイレは洗面所、洗濯機コーナーの両方から利用出来る。南面から見た外観。擁壁の手前は道路、駐車場、かなり日当たりがよい。2階和室と予備室。障子を開け、予備室と一体にして利用できる。1階リビングとガラス戸で仕切られた階段室。引き戸右側は地下への階段口。1階リビング。正面の収納スペースは、絵を飾ったまま開閉できるように厚みのある引き戸になっている。

新年のご挨拶

株式会社 辰
代表取締役社長 森村和男



新年、明けましておめでとうございます。21世紀と共に新たに創業した弊社も、お蔭様で5年目を迎える事が出来ました。これも偏に、皆様方のご支援の賜物と、深く感謝しております。最近ようやく新聞紙上でも1千億円を超える設備投資が報じられるようになり、景気も攻めの姿勢に転じ始めたかと思われます。然しながら、世界の動向は益々波瀾要因が蔓延しており、予断を許さない状況です。また建設業を取り巻く環境も、大手5社の活況を尻目に中小ゼネコンは未だに低迷しており、今後も期待は持たず、自己変革により切り拓く事以外、道はないかのように思われます。その中において、弊社はお蔭様で業績も順調に推移しており、さらに今期より共同持ち株会社「ZENホールディングス」が発足し、その一員としてさらに建築に特化した「建築屋」に徹して「らしさ」を旗印に躍動する所存です。どうぞ本年もご指導、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

TOPICS 「東山 1/2 Un Demi(アンドゥミ) 改修工事」 お引渡し (12月6日) 目黒区東山1-9-11

中目黒駅から徒歩数分、山手通り青葉台1丁目の交差点を一本入ったところに、デザイナーの齋藤美保子さんのショップとアトリエがオープンしました。改修設計を手がけられた岩澤靖幸氏(s.a.b.)に取材しました。「<ショップ(店舗スペース)とアトリエ(工房スペース)の2つを約50坪、天井高4,700mmの中で有効に構成する><11月初旬に展示会、12月中旬にOPENという工程を厳守する>という要望に対して、今回に限らず作り過ぎない空間屋」として、どれだけ2つのスペースを機能的且つあいまいに融合させるか、に配慮しました。「中2階を設けるには微妙な天高のため、スラブ厚を最小限に抑え、柱をなくし上から吊る方法を取り、1階部分の有効スペースを多くとりました。あえて天井の高いスペースにアトリエを配置しましたが、気持ちよく活動していただき、すばらしいもの創り出してもらえれば、と思います。いわゆる内装工事というよりは、前記のスペースにもう一つ別の構築物を造るという感じでしたが、辰には「坊(西麻布)1999年12月竣工」の時から、鍛冶屋パワーを見せつけられました。工程的にも一時、1週間の中断と正味1ヶ月の工期にもかかわらず幾度の変更にも根気よく付き合ってくださいました。」



外観 1階ショップ。アトリエ部分とは簡単な仕切りを設けているだけなので、レセプションなどでフロア全体をオープンに使うことも出来る。2階からアトリエを臨む。広々とした空間が心地よい。アトリエ。表の入口はショップと別になっている。2階螺旋階段。天井は木毛板。白を基調にした明るくシンプルな内装。

「T邸新築工事」地鎮祭 (2003年12月21日) 中央区

中央区新川に歯科医院を擁した併用住宅が建ちます。

構造:RC造 地上3階
用途:併用住宅
設計:白濱力
(有)グラフィス環境計画
完成予定:2004年5月



「山都」o.r.g. food bar, IDEE ROOMS UEHARA に OPEN

先月号でご紹介した代々木上原のイデールーム上原に、蕎麦屋「山都」とfood bar「o.r.g.」がオープンしました。どうぞお出かけください。
(写真上段:「山都」営業17時~25時 /定休日水曜/TEL 3466-3200、写真下段:「o.r.g. food bar」年中無休/営業時間など詳細は<http://www.cosmo-shopping.com/org/>へ。TEL 5738-0044)



INFORMATION

「株式会社ZENホールディングス」発足 (2004年1月1日)

ユニホーグループは、共同して完全親会社「株式会社ZENホールディングス」を2004年1月1日付けで設立いたしました。この親会社の設立により、グループ会社で重複していた組織機能、事業を集約し、役割の明確な企業集団として、全国の「住まい」に関して、より専門的で高度なサービスを提供してまいります。株式会社辰はこれまでと変わらず、良質な建設施工を目的にした「建築屋」としての使命を果たしてまいり所存でございます。今後ともよろしくお引き立ての程、お願い申し上げます。



写真:2003年12月新装工事を終了した(株)ユニホー東京支店1階ロビー改修工事担当(株)辰